

白根台第九地区の振り返りについて

5か年の主な取り組み実績

- 民有地緑化: 沿道の緑化として宅地延べ約150件の整備を実施し、継続的な維持管理のための雨水タンクや、花苗育苗施設の整備等を実施
- 活動支援: 地区内の花壇への花苗の植替え活動、ハンギングバスケットの技術研修や維持管理研修、挿し芽や種から育苗するための研修、広報誌の発行等を実施
- 公共施設緑化: 上白根小学校のよう壁緑化、メインストリートの花壇化と高木(ハナミズキ)・低木(サツキ)の補植、地区南側階段部でプランターによる緑化を実施

助成金額合計: 21,114千円



▲ハンギングバスケットによる緑化 ▲ハンギングバスケット講習会の様子



▲民有地の沿道緑化整備

これまでの活動で、
こんな緑のまちづくりの成果がありました。

延べ約150件の緑化整備を実施

ハンギングバスケットの設置や、宅地の沿道部分の緑化を行った結果、延べ約150件の整備を実施するなど、地区全体で緑化が進みました。このように地域全体で緑化が進んだのは、自治会の活動とのタイアップや、年2回の広報誌を発行し、成果を共有することで、多くの人々が興味をもち、「実際に整備された場所を見て、その内容や費用が口コミで広がった」ことが、大きな要因となりました。

継続的な活動を続けるために

必要な水や花苗等の費用軽減を目的に、雨水タンクを設置したり、種から花苗を育てる施設を整備するなども行いました。また、会の定例会を毎月1回開催し、会員がそれぞれの役割を担いながら、計画の進捗よく状況や成果を確認・共有しています。お互いの役割を担うことで、責任感が生まれ、それぞれの提案を受け入れる体制づくりにもつながりました。また、設置したハンギングバスケットの育成や植え方の研修の実施や、種から花苗を育てる施設の利用研修など、今後の維持管理に向けた研修などを実施し、緑化技術の習得を目指しました。

5か年の取り組みを振り返って...

※地区のインタビューのコメントから抜粋

誇らしく感じる
“自分の街”に

様々な場所で緑化整備を行った結果、「外から町にもどってくると、どこかを見れば、花や緑があって、ホッとすると、誇らしく感じるようになった。」という声や、「当初花に関心がなかったが、周りに花や緑が増えることで、街がだんだんきれいになっていくことが実感できた。」という声がありました。

緑や花によるまちの美観向上への効果が発揮されたとともに、このような活動を継続することで、各家で楽しむものであった内向きの花や緑が、外向きになり、そのことで、白根台第九地区の“わ”が一層大きくなりました。

横浜みどりアップ計画

地域緑のまちづくり事業

白根台第九地区

第九緑の会【5か年の取り組み】

- 協定締結期間
- 平成
- 23-27
- 年度



横浜みどりアップ 葉っぱ



事業に取り組むきっかけ・背景

白根台第九自治会が活動方針の一つとして掲げていた、「きれいで安全・安心なまちづくり」をより推進するチャンスとして、地域の緑化に取り組むことにしました。第九緑の会を発足するにあたり、自治会全員に賛否確認を行った結果、回収率が92%、全員が賛成(反対ゼロ)、運営委員の募集に対し、30名の方が手を挙げて、活動を始めました。

取り組みの概要

“きずな”の緑環境づくり

町の住民みんなが、協力して花や緑を育てることで、地域住民相互の“きずな”を深めます。

- ① 沿道よう壁の緑化・美化及び主要な出入口空間の緑化
- ② ハナミズキが植えられたメインストリートの緑化
- ③ メインストリートに面した民有地の沿道緑化の推進